

## <当社に期待するサステナブル・環境経営への取り組み> (1/2)

ご意見	J-POWERグループの取り組み
サステナブル・環境経営	
(第三者意見のページで)「環境経営への期待」というのはどうか。CSR的な考え取り組みを進める上で、この「問は足りない」感じがする。CSRの視点がないことを明示してしまう。	2007年版は構成を見直し、社会と企業の持続可能な発展を目指す視点から、サステナビリティレポートとして発行致しました。CSRの視点も整理しておりますので、ご意見頂ければ幸いです。
レポートに何もかも書いてある感じがしてメリハリがない。その時々の特集記事を掲載することを検討するべき。	
年を追って内容が充実していると感じました。本気になって理解してもらおうとすれば100ページの冊子になるかと思いますが、第三者が読むには長すぎると思います。	ご指摘のとおり2006年版の反省課題とし、2007年版は読者の皆様に特に読んでいただきたい事項を特集化し、全体としてもスリム化しました。ご意見いただければ幸いです。
コーポレート目標に向かって現在の程度まで進んでいるかといった数値は解らないのでしょうか？	CO2は地球環境への取り組み、産業廃棄物は地域環境への取り組み、環境マネジメントシステムの導入状況は透明性・信頼性への取り組みの項目にそれぞれ達成状況を掲載しております。今後ともわかりやすい編集を心がけてまいります。
目標を設定されているが、CO2、産廃以外はコーポレート目標に掲げられておらずSOx、NOxなどは余り削減する気がない印象を受ける。	SOx、NOxについては地域環境保全の観点から非常に重要であり、目標を設定し取り組みを進めております。2007年版P43をご参照いただければ幸いです。
貴社の社風である開拓的意欲でもって、環境経営でも電力業界の最前線に立ち続けてほしい。また、その状況を効果的に一般国民にPRされることを望む(環境関係では非常に重要)。	2007年版では、わたしたちの環境上の重要課題として石炭利用とCO2対策の両立を掲げ、特集化致しました。地球規模での環境問題に対して効果的取り組みを行なっていくためにも皆さんの問題として是非考えていただきたいという思いを込めております。ご意見いただければ幸いです。
巨大人口途上国が急速な経済成長を始め、エネルギー需要の拡大で石油価格高騰、資源価格高騰とエネルギー環境問題は世界的課題となり、市場経済での対応は出来ない。技術力が政治・経済と並んで表舞台で活躍する時代J-POWERは活動の中心的役割を果たし得ると思われる(環境への取り組み:大変分かり易い)。	エネルギー需要の増大、石油の減退などを視野に入れ、代替エネルギーによる技術開発を含めエネルギーの安定供給に取り組んでまいります。
燃料電池やソーラー発電など脱石油化を進めるべきだと思う。	
東京での停電の様な事にならない様にバックアップ体制の点検も必要だと思う(対テロ対応なども含めて)。	
東京都で停電がありました。国際空港や政府、主要都市は大丈夫ですか。	停電回避につながる私たちの体制については、2007年版P23-24の安定供給の取り組みにまとめておりますのでご参照いただければ幸いです。
電力確保手段の多様化と増強を行なうべき。	引き続き多用な電力設備の整備に努めてまいります。取り組みについては2007年版P23-24などをご参照いただければ幸いです。
会計に関する取り組みの更なる充実を希望します。財務会計のみならず環境会計を重点的に考えるべき。	
環境会計に関する報告・記述が僅かで分かり難い。環境経営の為には更に記述が欲しい所です。	環境省の環境会計ガイドラインなどを参考に更に環境会計の充実に取り組んでまいります。
過去の負の環境が現在の経済を構築している必然を考えると、現在の環境経営は持続的発展が必要不可欠であるのがんばっていただきたいと思う。	
環境のための各種取組が良くわかりました。電気はなくてはならないものです。地球環境問題にも大きくかわる事ですが、今以上に環境問題の事を考え、エネルギーとの共生をはかって下さい。	社会の持続可能な発展に貢献していくため、環境配慮と経済価値の向上を同時に実現する「環境経営」に取り組んでいきます。
企業の環境の取り組みが見て知れた。来年度も同じような形でいいと思いました。今後に期待します。	引き続き私たちの企業理念である「エネルギーと環境の共生」を目指し取り組んでまいります。
一層の「エネルギーと環境の共生」を推進されたい。内外に技術移転の努力も。	
環境問題への様々な取り組み、海外での幅広い事業展開、又、過去のトラブルからも学びとり、未来に活かそうという貴社のすばらしいスタンスが理解できた。	「エネルギーと環境の共生」を目指す企業理念のもと、着実に取り組みを進めてまいります。
松下幸之助様のダム経営のように電力を十二分に供給し、かつCO2を削減する方法はありますか。家庭で風力発電が手軽にできませんか。海からエネルギーを採れませんか。	
地球温暖化防止対策の観点から原子力発電及び風力発電など新エネルギー開発の一層の推進と火力発電所のCO2対策に取り組むべき。更に海外プロジェクトでの役割も重要と考えられます。	
台風14号の際、(八丈島が)停電しました。八丈島なら風力発電に適していると思うのですが。エコ的な事業をできませんか？	J-POWERグループは、電力の安定供給とCO2の削減の両立を最重要課題と認識し、エネルギー利用効率の維持・向上、CO2排出の少ない電源の開発、技術の開発・移転・普及および京都メカニズムの活用などを、地球規模での費用対効果を考慮して経済合理的に組み合わせ実施することにより取り組みを進めてまいります。
水力発電の資源は水と雪です。雪は天然のダムとして安定した電源を保障します。しかし只見町の住民は本来エネルギーとして貴重とされる雪の多さに悩まされ昨冬も多くの人命が失われました。除雪、産雪という発想だけでなく、うまく雪を利用する利雪という発想に立って雪をうまく回収し、発電に利用し、地域住民も安心してらせる自然の循環にマッチした新しい環境システムを考えてほしいと思います。毎年供給される圧倒的な雪を天の恵空から降ってくる貯えのきくエネルギーと考え、うまく利用することはCO2の削減や海外の資源にたよらないエネルギーの安定確保にもつながると思います。	
沖縄地域及びタイ国での開発を促進しましょう、JR東海のソニア事業に参入しましょう。台風をエネルギーに転換しましょう。	タイでは私たちが出資する発電事業として、2006年11月にゴム木廃材を燃料とするバイオマス発電所が、2007年ガス火力発電所が運転開始しております。2007年版P52-53をご参照いただければ幸いです。

## <当社に期待するサステナブル・環境経営への取り組み> (2/2)

	ご意見	J-POWERグループの取り組み
<b>地球環境問題への取り組み</b>		
	エネルギー利用効率の維持向上が大切。	「エネルギーと環境の共生」の観点から発電所の高効率化などエネルギー利用効率の向上に取り組んでまいります。
	経済的な発電をし、極力オーバー発電を止めるべき。	
	エネルギーや資源の再利用は重要だと思う。	「エネルギーと環境の共生」の観点からエネルギー利用効率の向上、資源の有効利用・再利用を進めてまいります。
	廃棄物で発電する技術はこれからとても大切になってくると思われる。	J-POWERでは建設廃材由来の木質系バイオマスチップ燃料や下水汚泥燃料などを石炭と混焼し火力発電所で利用することにも取り組んでいます。
	火力は燃料のアップにより厳しい状況にあると思われるので、原子力ヘシフトしてはいかがでしょうか？環境にもやさしいと思います。	J-POWERグループは、地球環境問題に「エネルギー利用効率の向上」、「CO2排出の少ない電源の開発」、「京都メカニズムの活用など」、「技術の開発・移転・普及」という4つの方策のもと取り組んでいます。「CO2排出の少ない電源の開発」として原子力への取り組みを進めてまいります。
	大間発電にも注目しています。高効率化、長寿命化、長耐用年数のバランスのとれた次世代発電所を期待します。	全炉心MOX燃料装荷をめざした原子力発電所の建設に向け、鋭意取り組んでまいります。
	京都メカニズムなど日本企業をリードしていただきたいと思います。がんばって下さい。	京都メカニズムについては、2007年3月末時点で合計5件のプロジェクトがCDM理事会に登録される成果を上げることができました。引き続き取り組みを進めてまいります。
	外国に環境技術をもっと教えていかなければならないと思います。地球環境問題への取り組みをがんばってやってください。	ご意見のとおり、地球規模での環境問題への取り組みが課題であると認識いたします。国内で培った技術を活用し各種の海外事業を展開し環境技術の移転に努めてまいります。従来のコンサルタント事業に加え、IPP事業を通じての技術的アドバイスなども開始しています。
<b>地域環境問題への取り組み</b>		
	発電所は立地地域との理解と協力、信頼関係が重要であると考えます。特に原子力は地域だけでなく国民的理解を得られるよう努めなければならないと思います。一層の理解を得られるため積極的な役割をはたしていく活動が求められます。より多くの人に活動を知って頂き、誰からも支持されるような環境経営を行っていくことが必要であると思います。	一層のご理解とご協力のもと、信頼が得られるよう努力してまいります。
	2006年版のP40「オフィスでの取り組み」良いと思います。是非、充実させて頂ければと思います。	2007年度から古紙の再資源化率を2010年度において85%以上に(前年度比1%以上向上)することを目標化しました。今後一層の省資源活動を進めていきます。
	循環資源の再生・再利用の100%をぜひ実現させていただきたいと思います。	循環型社会構築に向け、更に産業廃棄物のゼロエミッションに向けた取り組みを進めてまいります。
<b>透明性・信頼性への取り組み</b>		
	リスク管理とトラブルがあれば公表することが重要。	コンプライアンスの徹底を図るとともに、危機管理体制の整備を進め、トラブル発生時には速やかな情報開示に努めてまいります。
	トラブル隠しがあると不安。	
	事故発生時、発表はウソを言わない。1回言うとウソのウフノセになります。その後の処理で信用が決まります。メーターの点検などウソを記入しないことが基本。	
	取り組みについて情報発信方法の充実を。	今後とも情報発信の充実を努めてまいります。
<b>社会面の取り組み</b>		
	今後も事業の展開と併せ、地域社会も重視した取り組みに期待します。	私たちの企業活動は発電所などの立地地域の人々によって支えられています。従業員一人ひとりが「良き企業市民」として、地域の人々から信頼され、親しまれ、地域とともに生きることを目指します。
	やや地域へのかかわりが薄く感じられます。	
	女性の採用をもっと増やしていただきたいと思います。	私たちは多様な人材の採用に取り組んでいます。特に、現在、女性が活躍できる職場づくりを進めております。
	業者災害も含めて労働災害の改善を	事業の推進にあたっては、安全確保を最優先として取り組んでまいります。
	安全経営(作業)を	